

広島地方裁判所御中

原告意見陳述要旨

伊方原発運転差止等請求事件本案訴訟
2022年6月8日第28回口頭弁論期日

第2陣原告 きりあけ ちえこ

(広島市在住 広島原爆被爆者)

本日は貴重な意見陳述の機会を与えてくださり、心から御礼申し上げます。私は切明千枝子と申します。今年93歳になります。

私が原爆に遭ったのは、広島県立第二高等女学校4年生の時、15歳でした。動員先の専売局^{注1}から、先生の許可をいただいて、病院に行く途中、比治山橋^{注2}のたもとでした。ピカッと光って、私は叩きつけられ、気がつくとガレキの下でした。なんとか這い出して、広島市内の方を見るともう一面火の海でした。申し上げたいことは沢山ありますが、2つのことだけ申し上げます。

ひとつは雑魚場町^{注3}で建物疎開の作業をしていた一人の下級生のことです。建物疎開組は爆心地から近いこともあって全滅でした。一人だけ奇跡的に助かったのです。この人は戦後結婚し、子どもも設けましたが、37歳で亡くなりました。直接には胃がんでしたが、わかったときには全身にがんが広がっていたそうです。原爆には生き残ったが、放射能の魔の手からは、逃れられませんでした。

もう一つは温子(たずこ)ちゃんと澄子(すみこ)ちゃんのことです。2人は母の実家の、私のいところ。年も近く仲良しでした。2人の父親は日銀広島支店に勤務していましたが、遺体も見つかっていません。母親は建物疎開ででていました。これもどこでなくなったかもわかりません。もう一人長女がいましたが、彼女の遺体もわかりません。たずこちゃんとすみこちゃんの2人だけが舟入^{注4}の家の中にいて助かったのです。

2人は下着姿で宇品^{注5}にあった私の家に逃げてきました。傷一つない綺麗な体でした。家に着くとすぐ寝込んでしまいました。2日くらいしたら血便を出し始めました。母は、当時誰も放射能のことは知りませんでしたので、赤痢にかかったと思い、私は2人に近寄ることさえ許されませんでした。高熱が出て、「水、水」と水を欲しがりました。体に斑も出てきたそうです。1週間くらいしてでしょうか、2人は亡くなりました。お棺がないので、桐のタンスの引き出しに遺体をいれて、宇品の翠町^{注6}の桜土手の、その堤の根元付近で2人を焼きました。

裁判長、放射能は恐ろしいものです。

福島原発事故が起こったとき、夫（悟【さとる】氏）がすぐ「山田に電話せい！」というので電話しました。山田さんというのは元福島大学学長の山田 舜（あきら）^{注7}さんのことです。夫とは「さーちゃん」「しゅんちゃん」の間柄の幼なじみでした。山田さんは「放射能というのは目にみえんし、ここらにもとんできとるかもわかりゃせんのだけども、おれは原爆のことがいやで福島まできたのに、また放射能にやられるかと思うと腹が立って腹が立って地団駄をふみたくなる。」と喋っておられました。また山田さんは、「あちこちにできとるんだろうが、原発は人間が作っちゃいかんものだ。」とも喋っておられました。

裁判長、私は、やっぱり原子力なんて、ましてや核兵器なんて人間がいじってはいけないものだと思います。生命（いのち）にどんな恐ろしいものをもたらすか。人間が核や原子力を制御できると思っているのか、事故が起きたらどうするのか。実際ある資料（「国際原子力事象評価尺度」^{注8}）によると、60年あまりの間に7回、チェルノブイリ原発事故や福島原発事故を含めて、放射能を大量に出す事故が世界のどこかで起きているというではありませんか。人間が制御できるものではございません。

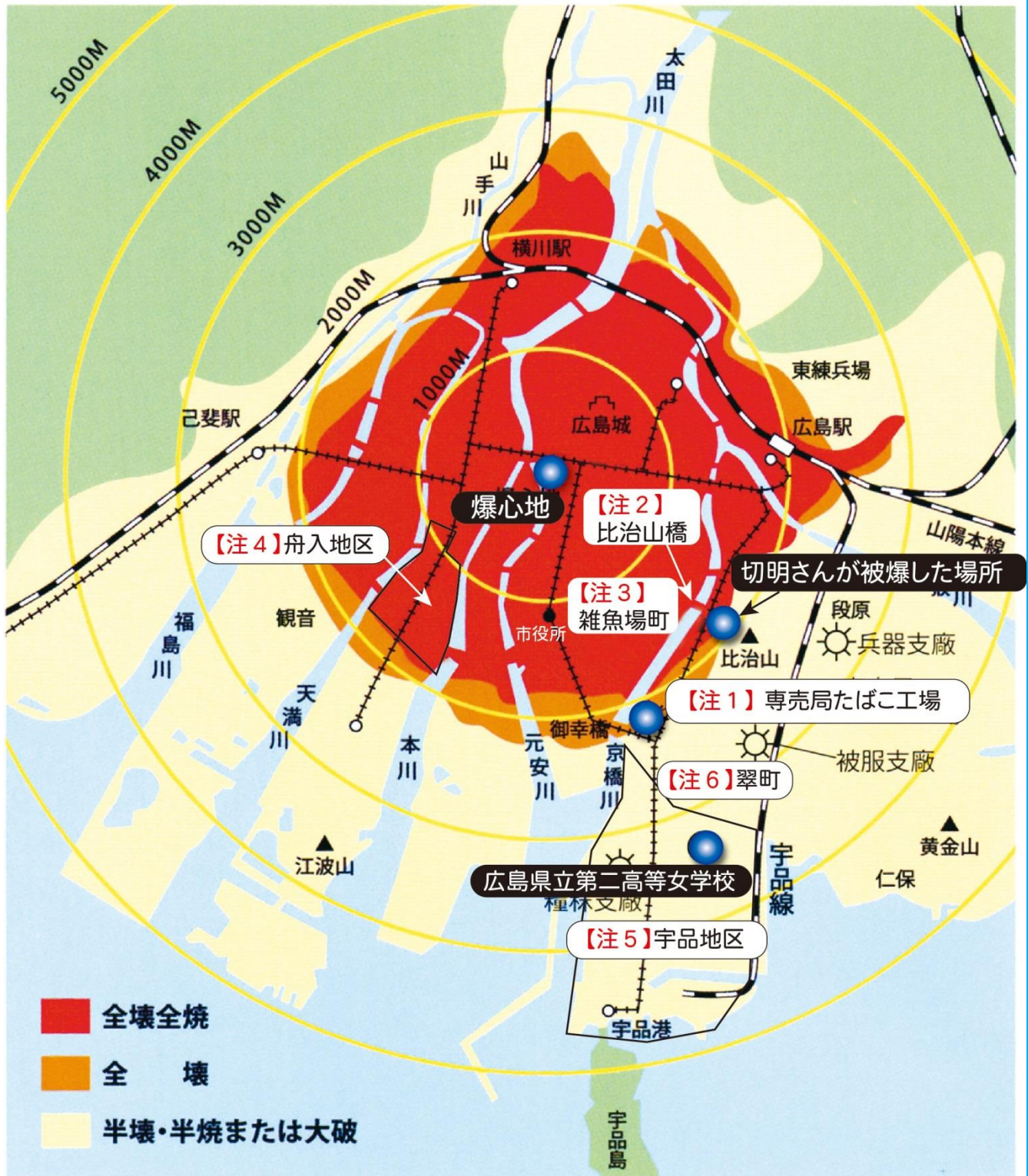
伊方原発は船から見たことがあります。「あれが伊方原発だ」と人から教えられて初めて気がつきました。海岸にへばりついているような原発で、事故でもおきて倒れてきたら瀬戸内海は全滅すると思いました。なんであんなところに原発なんか建てたんだろう、と腹立たしい思いをしたことを憶えております。

私は年もとりに、もうたいしたこともできません。が、このお話しをいただいた時、すぐに原告になることを決めました。それが私にできることだったからです。

裁判長、今回裁判では、賢明なるご判断の上、伊方原発の運転差止を是非とも命じていただきたいと思います。

ご静聴ありがとうございました。

【注1～6】 広島市内地名の位置関係は下記マップの通り。



資料出典：切明千枝子著「ヒロシマを生き抜いて」Part2
(発行 ノーモア・ヒバクシャ継承センター広島 2021年12月)
「広島被災地図」を引用・加工(元図は広島平和祈念資料館提供)

【注7】山田 舜（やまだ あきら）氏。

広島市内翠（みどり）町で被爆。夫の悟氏とは幼なじみ。東京大学経済学部を卒業後、福島大学で教授。専門は日本経済史。同大学経済学部長を経て、1984年から1989年まで同大学学長。1995年から2001年まで東日本国際大学長。福島県原爆被害者協議会会長も務めた。福島県九条の会、日中友好協会などの活動にも取り組む。2017年肺がんで死去。享年90歳。

【注8】「国際原子力事象評価尺度」(INES) は以下の通り。

レベル5以上が環境に大量の放射性物質放出を伴う核事故。

International Nuclear and Radiological Event Scale, INES

国際原子力事象評価尺度

レベル	影響の範囲（最も高いレベルが当該事象の評価結果となる）			参考事例
	基準 1 事業所外への影響	基準 2 事業所内への影響	基準 3 深層防護 の変化	
7 深刻な事故	放射性物質の重大な外部放出： ヨウ素 131 等価で 数万テラベクレル以上の 放射性物質の外部放出	原子炉や放射 性物質障壁が 壊滅、再建不 能		チェルノブイリ原子力発電所 事故 (1986 年) 福島第一原子力発電所事故 (2011 年)
6 大事故	放射性物質の重大な外部放出： ヨウ素 131 等価で 数千から数万テラベクレル相 当の放射性物質の外部放出	原子炉や放射 性物質障壁に 致命的な被害		ウラル核爆事 (キシテム事故) (1957 年)
5 事業所外へ リスクを伴 う事故	放射性物質の重大な外部放出： ヨウ素 131 等価で 数百から数千テラベクレル相 当の放射性物質の外部放出 ※原子力規制委員会が規制基準で 想定している事故のレベル ※ただしこれ以上にならないことは 保障されていない	原子炉の炉心 や放射性物質 障壁の重大な 損傷		チョーク・リバー研究所原子炉 爆発事故 (1952 年) ウィンズケール原子炉火災事故 (1957 年) スリーマイル島原子力発電所事 故 (1979 年) ゴイアニア被曝事故 (1987 年)
4 事業所外へ大 きなリスクを 伴わない事故	放射性物質の少量の外部放出： 法定限度を超える程度 (数mSv) の公衆被曝	原子炉の炉心 や放射性物質 障壁のかなり の損傷/従業 員の致死量被 曝		フォールズ SL-1 炉爆発事故 (1961 年) 東海村 JCO 臨界事故 (1999 年) フルーリュス放射性物質研究所 ガス漏れ事故 (2008 年) 等
3 重大な異常 事象	放射性物質の極めて少量の外部放出： 法定限度の 10 分の 1 を超える 程度 (10 分の数mSv) の公衆 被曝	重大な放射 性物質による汚 染/急性の放射 線障害を生じ る従業員被曝	深層防護 の喪失	動燃東海事業所火災爆発事故 (1997 年) 東北地方太平洋沖地震によっ て福島第二原子力発電所で起 こったトラブル(暫定 2011 年)
2 異常事象		かなりの放射 性物質による汚 染/法定の 年間線量当量 限度を超える 従業員被曝	深層防護 のかなり の劣化	関西電力美浜発電所 2 号機・蒸 気発生器伝熱管損傷 (1991 年) 等
1 逸脱			運転制限 範囲から の逸脱	「もんじゅ」ナトリウム漏洩 (1995 年) 日本の旗 関西電力美浜発電所 3 号機・2 次冷却水配管蒸気噴 出 (2004 年) 等
0+ 尺度以下	安全に影響を与え得る事象			関西電力美浜発電所 3 号機 2 次系配管破損事故 (2004 年) 等
0- 尺度以下	安全に影響を与えない事象			新潟県中越沖地震に伴う東京電 力柏崎刈羽原子力発電所での一 連の事故 (2007 年) 等
評価対象外	安全性に関係しない事象			

※レベル 3 以下については、日本国内で発生した事象のみ掲載している。

文部科学省（科学技術・学術政策局原子力安全課）の公文書 1、en:International_Nuclear_Event_Scale より作成。

【引用出典】 wikipedia「国際原子力事象評価尺度」より